



# 未来へつながる板橋



## あけましておめでとうございます

新年の幕開けにあたり、区民の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、世界中に流行した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、かつてない厳しい年となりました。

区では、これまで、検査体制の強化や医療機関への支援、感染症の拡大を抑制する対策、区民生活・商工業に対する支援など、区民の皆様のご健康を守り、暮らしを支える取組を進めてまいりました。

本年は、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に優先的に取り組みつつ、感染症の影響で激変した社会経済情勢に対応した「いたばしNo.1 実現プラン2025」を策定し、「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」の実現をめざしてまいります。

この計画に沿って、すべての区民の皆様が生涯にわたり、身近な地域で安心してお過ごしいただけるよう、SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる「誰一人取り残さない」という基本理念のもとに、SDGsの達成に向けた施策に重点的に取り組んでまいります。また、日々の生活がより便利で快適になるよう、デジタルトランス

フォーメーションを積極的に推進するとともに、区民・関係機関の皆様と連携して、板橋らしい魅力を創造・発信することで、郷土愛の醸成や板橋のブランド価値を高めていきます。これらの施策の展開により、持続的に発展する「東京で一番住みたくなるまち」の実現をめざしてまいります。

本年3月末には、板橋区平和公園内に、いたばしローヤル絵本館を併設した中央図書館が、12月には、植村冒険館を併設した東板橋体育館がリニューアルオープンします。地域のコミュニティの核となり、読書やスポーツを楽しみ、学習や健康づくりを進める場として、多くの皆様にご利用いただくことを願っています。

終わりに、コロナ禍は、未だ予断を許さない状況にあります。区民の皆様とともに、この難しい局面を乗り越え、だれもが安心して心豊かに暮らせる、快適で魅力あるまちづくりに、本年も全力で取り組んでまいります。

引き続き、区政に対するご理解とご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



板橋区長  
坂本 健

区内在住・高校1年生  
山口夏凜さん

高校が新型コロナウイルス感染症で休校中に、子どもたちを少しでも守りたいという思いから、区内保育園の園児あてに手作りマスク25枚を寄贈。学校が再開した現在は、将来の夢に向かって、勉強・部活に励んでいる。

人の役に立ちたい！  
夢に向かって今できること



Q マスクを寄贈したことで、山口さん自身の心境に変化はありましたか

A 実は、ボランティアにはあまり興味がなかったのですが、人の役に立つことがとても幸せな気持ちになることを知りました。家族や周りの人に喜んでくれたことが、何よりも嬉しいことでした。

Q 学校生活で困ったことはありましたか

A 入学してから一度も登校することなく休校になってしまったので、学校の友人とSNSを通じてしかコミュニケーションを取ることができませんでした。学校に行けない間、オンラインで先生やほかの生徒の顔を見て話す機会があると良かったです。

Q 2021年は板橋区でどのような活躍をしてみたいですか

A 中学生のときに通っていた板橋フレンドセンターで、ボランティア活動してみたいです。私が不登校だった頃の経験談を子どもたちやそのご両親に伝えることで、みなさんを応援したいです。将来は、板橋区で小学校の先生になることが夢です。



ホームタウンへ恩返し！  
声援をこれからの力に

プロサッカークラブ  
東京ヴェルディ  
小池純輝選手



東京ヴェルディは、昨年5月に、感染予防の一環としてチャリティTシャツを販売。ホームタウンとして連携協定を締結している5自治体に対し、その収益金を寄付。板橋区には、550本の消毒液(約71万円分)を寄贈。区立保育園・幼稚園、小・中学校で予防対策に使用されている。



Q チャリティTシャツの販売による消毒液の寄贈を行った経緯を教えてください

A 日頃から区民のみなさんの温かい支援・声援に支えられ、活動することができています。コロナ禍の苦しい状況の中、温かいサポートをしていただいているホームタウンの方々にも役立ててもらうために、この企画がスタートしたと聞いています。

Q 選手活動はどのように変化しましたか

A 試合ができない期間は、トレーニングやオンラインでミーティングを頻繁に行い、サッカーに対して深く考える時間を多くとることができました。SNSでファンとの交流も積極的に行い、つながりを感じるが多かったです。活動が再開された今、コロナ禍で培ったものが価値あるものになっていると感じています。

Q 区民のみなさんへのメッセージをお願いします

A 今年は、オリンピック・パラリンピックが東京で開催され、スポーツをきっかけに様々なつながりが生まれるはず。スポーツを通して、みなさんに元気・感動を与えられれば嬉しいです。板橋区そして日本を一緒に盛り上げていけたらいいなと思っているので、ぜひスタジアムに来ていただいて、勝利を分かち合いたいです。



コロナ禍で  
生まれた  
変化

# 新たなつながりと前進

新型コロナウイルス感染症により、社会・経済などの様々な面で大きな影響を受け、人々の生活・価値観が一変しています。感染防止のために人と距離を取ることが重視され、直接、接することが難しいなか、様々な「つながり」を大切に、ピンチをチャンスに変えて活躍する方々を紹介します。

## 持続可能な 明るい未来を 実現するために

板橋区長 坂本健



コロナ禍による予期せぬ様々な状況の変化のなかで「つながり」を大切にしながら、社会・地域のために前向きに取り組んでおられる方々のご活躍は、区がめざす地域連携・協働の着実な実践の証や板橋区の魅力に改めて気づく機会となりました。未曾有の危機にあっては、地域や社会と一体となった連携の強化と将来を見据えた新たな発想による施策の展開が必要です。

区では、誰もが生涯にわたり安心して暮らせる持続的に発展する板橋区を実現するため、「SDGs」の目標に向けた施策に取り組んでいます。また、ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進や産業の創出、オンラインによる地域医療のネットワーク化、スポーツを通じた介護予防への取組など、新たな技術を取り入れた区民生活の質の向上を推進していきます。

一方で、感染症対策のために余儀なくされた非接触や隔離で、人と人とのつながりや対面によるコミュニケーションなどの重要性が再認識されました。これらの不変で価値の高いものを大切に、心の通う区政運営に注力し、人々が生き生きと暮らせるまちづくりを進めていきたいと思っています。

今年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催も予定されています。引き続き、安心・安全な生活を第一に考え、明るい未来への希望を信じて、着実に前進していきましょう。

## ロボット開発で みんなの未来に貢献したい

株式会社ファームロイド  
代表取締役  
飯村一樹さん



紫外線による植物の病害虫駆除技術を転用し、紫外線照射ロボットを開発。昨年5月に(株)ファームロイド・日本大学医学部・板橋区での産学官連携による実証実験で、新型コロナウイルスの除去を確認。より高度な殺菌能力を持ったロボットの開発をめざしている。  
※産学官連携…民間企業、大学・研究機関、行政が新技術の研究開発・新事業の創出を図ることなどを目的に連携すること

Q 産学官連携はどのようなメリットがありましたか

A 当社のようなベンチャー企業だけでは、今回のようなウイルス除去に対する効果実証は信頼性に欠けることがあります。区に連携する機会をマッチングしてもらい、協力して実証実験ができたことは、大きな意味がありました。

Q ビジネスや働き方に変化はありましたか

A オンライン会議の導入があります。移動などの調整がいらず、全国各地でも同時にコミュニケーションが取れ、時間を有効活用できます。また、遠方の企業などとも共同事業化に向けてすぐに連携できるのは、デジタル化の進展が大きいです。

Q 板橋区で今後どのような活躍をしていきたいですか

A ロボットには、センサーなどの様々なパーツが必要であり、今後は医療機関や健康産業向けのロボット開発も検討しています。板橋区には、光学系企業や医療機関が多いことが魅力であり、連携も期待されます。高齢者が安心して生活するためのロボットの開発・仕組みづくりに取り組んでいきたいです。

※感染防止に配慮し、インタビュー時はマスクの着用、オンラインを活用した取材を行いました。撮影時のみマスクを外しています。

## 地域医療の連携で 新型コロナに立ち向かう！

公益社団法人板橋区医師会  
会長  
齋藤英治さん



地域医療の要として区民の健康を守るために、日々、医療活動に取り組む。新型コロナウイルス感染症への対応では、区・区内医療機関と連携を取り、板橋区PCRセンターの運営などに迅速に対応、安定的な医療体制の構築に寄与している。

Q 医療体制を整えるなかで感じたつながりがありますか

A 区・保健所と協議を進め、板橋区PCRセンターを早急に開設することができました。また、安全で確実な検査システムを確立するため、各関係機関の意見聴取・連携を築いてきました。区民のみなさんからの支援物資・メッセージが添えられたお花が届いたときは、新しいつながりを感じました。

Q 今後の医療のあり方はどのように変化していくと思いますか

A 対面での診療が基本なことは今後も変わりません。しかしながら、「医療を効率的に行うための手段」としてデジタル化やAI(人工知能)の活用は考えられます。新しい技術がどういった形で医療分野に貢献するかについては、メリット・デメリットを冷静に捉えながら活用していきたいと思っています。

Q 区民のみなさんへのメッセージをお願いします

A 新型コロナウイルス感染症との共存生活は、まだ続きます。必要以上に怖がらず、身体を健康に保つことが大切です。また、誰でも感染する可能性があるということを認識して、感染した方を患者扱いなどしないでください。いつかは流行の収束宣言が出されることだと思いますので、一緒に頑張っていきたいです。



# いたばしのお正月

## お正月の伝統

昔から農業が盛んだ板橋区。お正月行事にもその伝統が息づいています。

正月飾りやお雑煮に欠かせないお餅。今では市販品を口にする機会が多くなりましたが、板橋区では、年末に親戚や近隣の農家が集まって共同で餅をつく光景が戦後まで続いていました。

田遊びは、新年の豊作を願う神事。田植え・収穫など、稲作の様子を模倣する予祝神事として地域で楽しまれてきました。現在は、2月(旧暦の正月)に行っています。

現在は、「大門餅つき」「徳丸北野神社田遊び」「赤塚諏訪神社田遊び」が国や区の文化財になっています。今に伝わる郷土芸能にも、農業を中心としてきた板橋区の歴史を感じることができます。

お正月にまつわる区の伝統や食・遊びを紹介します。コロナ禍により、いつもとは違うお正月。自宅で簡単に作れるレシピや「たこ」の作り方も紹介していますので、ぜひお楽しみください。



「七草がゆ」とは、春の七草を入れて炊いた「おかゆ」のことで、1月7日(七草の日)に健康を願って食べる風習があります。「七草がゆ」は、地域によって様々ですが、板橋区では古くから、この七草に加え、畑で収穫された里芋・にんじん・長ねぎなどを一緒に炊き込んだ「おかゆ」が伝えられてきました。

## 七草がゆ

- 春の七草
- 1 せり 2 なずな(ぺんぺん草)
  - 3 ごぎょう(ははこ草) 4 はこべら(はこべ)
  - 5 ほとけのざ(こおにたびらこ)
  - 6 すずな(かぶ) 7 すずしろ(大根)

## 自宅でも簡単に作れる! 区立保育園レシピ「七草風雑炊」



- 作り方
- 1 せりは根を切り落とし、1~2cm程度の長さに切って、茎と葉に分ける。かぶ・大根は皮をむき、いちょう切りにする。ねぎは小口切りにする。
  - 2 鍋に入れただし汁に、せりの茎・大根を入れて煮る。
  - 3 やわらかくなったら、せりの葉・かぶ・ねぎを加え、さらに煮る。
  - 4 ③にごはんを加え、ひと煮立ちさせる。
  - 5 しょうゆ・食塩で味を調え、器に盛って完成。

- 材料(4人分程度)
- ごはん…茶わん4杯分
  - せり…3本程度(15g)
  - かぶ…中2分の1個(60g)
  - 大根…2cm程度(60g)
  - ねぎ…2分の1本(50g)
  - だし汁…1~1.5L
  - しょうゆ…大さじ1と2分の1
  - 食塩…適量

七草のうち3つでできるよ!

## 折り紙で簡単に作れる! 家で遊べる「たこ」の作り方

材料

- 折り紙(15cm×15cm)…1枚
- ぬい糸(50cm程度)
- 輪ゴムまたはストロー
- セロハンテープ
- ホチキス ●ペン

作り方

- 1 折り紙の色がついた方を内側にし、半分に折って戻す。
- 2 折り紙の色がついていない方を表にし、折り目の端から4cmのところには、折り紙をふんわり曲げて、細く切ったセロハンテープでとめる。
- 3 折り目に沿って折り、画像③の右の赤丸部分をホチキスでとめ、左の赤丸部分に糸をセロハンテープでつける。糸の先に輪ゴムまたはストローをつけて完成。

※輪ゴムを手首につけたり、ストローを持ったりして、自分で走って「たこ」をあげるため、遊びながら運動できます。 【出典】子ども工作レシピ

## たこあげ

「たこあげ」の起源は古く、西洋・東洋ともに紀元前までさかのぼると言われ、日本でも江戸時代以降、各地で楽しまれていた記録が多く見られるようになります。当時は地域によって遊び方に違いがあり、大阪では旧暦2月初午(はつうま)の日に宴会をしながら「たこあげ」を行ったのに対し、江戸では旧暦の小正月がもっとも盛んで武者絵・歌舞伎絵の絵柄が多く使われていました。

かつては板橋区内にも、伝統的な江戸だこ作りをされている方がいらっしゃいました。また、昭和55年から「板橋区親子たこあげ大会」を行っており、現在でも区内外の多くの方に親しまれています。